

## 平成28年度（第6回）二宮町社会教育委員会議 会議録

日 時：平成29年2月15日（水）13時30分より

場 所：二宮町生涯学習センターラディアン ミーティングルーム1

出席者：（社会教育委員） 野村幸雄委員長、橘川昭夫副委員長、江見千秋委員、  
久保田秀実委員、関口金由紀委員、蓮實茂夫委員、  
三宅栄子委員、目黒美砂緒委員  
（事務局） 府川教育長、鐘ヶ江教育部長兼生涯学習課長、小嶋生涯学習・  
スポーツ班長、丹羽図書館班長、佐藤主事

傍聴者なし

資料

- ・会議次第
- ・平成28年度社会教育事業報告（平成28年9月16日～平成29年1月25日）
- ・平成28年度放課後子ども教室事業報告（6月～9月）
- ・平成29二宮町社会教育委員会議開催予定

### 1 開 会

### 2 あいさつ

### 3 議題

#### （1）平成28年度二宮町社会教育事業報告について（9月16日～1月25日）

※事務局より資料に基づいて説明。

（委 員）9月24日の子ども会リーダー研修会の参加対象は、年間で決まっているのか。

（事務局）子ども会の各地区の小学6年生のリーダーを対象としている。年間で予定され、子ども会の3大事業に対してリーダーがそれぞれいる。

（委 員）参加人数は38名となっているが、全体では何名いるのか。

（委 員）地区によって人数は違うが、全体で60名程いるはずである。

（委 員）10月2日の町民体育祭で、2千人の参加人数となっているが何で集計しているのか。以前は3千人規模だったと思うが。

（事務局）人数は各地区で発注したお弁当の数を集計したものである。

（委 員）11月27日の町民大学サポーター企画講座は他の町民大学とは異なった講座なのか。

（事務局）生涯学習ボランティアとは別の講座で、町に講師登録をしている町民大学サポーターが企画・運営・講師まで行う講座である。サポーターは個人と団体とあり、今回は自然観察会という団体が講師となった。例年の傾向として、自然観察関係の講座に人が集まらない状況があり、その中で今回中止となった。

（委員長）他の講座で中止になったものはあるのか。

- (事務局) 子どもチャレンジ教室の「凧上げ」も中止となった。
- (委員) いろいろと宣伝したが、4人しか集まらなかった。企画・運営している学級講座部会として5人以下だった場合、中止としている。今は、お正月に凧上げをしている子もないからか。
- (教育長) 昨日、児童生徒安全対策協議会があったが、その中で、最近の小学生は習い事へ行くときに、帰宅せずにそのまま行ったりして、集団下校となっても一人で帰宅となる子がいて心配だということだった。企画の内容が悪いのではなく、子どもの生活、実態が昔と変わってきている。原因としてどういうことが考えられるか。
- (委員) 考えられるのは、習い事やスポーツクラブに低学年から通っている子が多いということに加え、保護者の関心が薄いという状況があると思う。
- (委員長) 学校に出前講座のようなことはできるのか。
- (事務局) これまでそういった例がない。
- (教育長) 他の子どもチャレンジ教室の参加人数はどうか。
- (委員) 「表面張力」は8名、「お菓子作り」は16名の参加。保護者が教室について来たりしているが、子ども集めが難しいのが実情である。
- (教育長) なぜ子ども自然塾には集まって、子どもチャレンジ教室には人が集まらないのか。せつかく企画をしているのだから、人を集めたいところである。
- (委員) 子ども自然塾の対象は、幼児とその兄弟が多い。小学生になると、習い事やスポーツ教室、塾に通っている。以前は小学生から習っていたが、現在は幼児から通っていたりして、子どもに時間が少ない。それに加え子どもの絶対数は減っている。良い企画をしても、人を集めるのは難しい。おはなし会では小学校に出向いて、朝自習の時間にお話しや紙芝居を行っている。出向いていけば、全員が対象になるが、学校も学習指導要領があるなかで、授業の中に組み込むのも難しい。
- (委員) 学校の時間の使い方も難しくなっていて、ちょっとした時間も使っていないと、授業時間数と授業内容を消化しきれない状況がある。
- (委員) 参加した子どもにアンケートをとっていて、その中で町の広報紙を見て知り、申し込んだという集計が多い。保護者が広報紙を見て子どもに伝え、申し込んでいる状況が考えられる。子どもの意思というより親の意思が参加に影響しているのでは。
- (委員) 学校の授業などで関連する内容のことがあり、学校から応援来てくださいますとあれば伺うことはできる。
- (教育長) 年間のカリキュラムを参考にしてもらい、授業内容によって内容が講座と重なるものがあれば、学級講座部会の方に手伝ってもらうことはできるのでは。今後の町民大学や子どもチャレンジ教室の在り方について、参加者を増やすということだけでなく、学校で活用することも検討していきたい。
- (委員長) 子どもが習い事や勉強ばかりになって、学校に出向いて行かないと体験ができない。

- (委員) 古典講座の「徒然草」や「吾妻鏡」の参加者はどういった方なのか。
- (事務局) 古典講座などは例年人気があり、中高年の方の参加が多い。
- (委員) 古典講座は毎年シリーズで開催していることもあり、リピーターが多い。古典もの、歴史探索の講座は人気がある。
- (委員) リピーターという限られた人の参加となっているのか。リピーター以外の方はどうか。
- (委員) 「吾妻鏡」の参加者をみると、3分の1がリピーター、3分の2は新規の方のようであった。女性も多くいて、講師に質問をして熱心な方もいた。
- (事務局) リピーターはもちろんだが、新規の方もいたので、そこから広がっていけば。
- (教育長) 子どもや若い世代のニーズ調査はしているのか。
- (事務局) 講座毎にアンケートはとってはいるが、参加している人のアンケートのため、参加しない人のニーズは分からない。
- (事務局) 申し込みが少ない講座などがあれば、図書館に来る方に向けて、図書館にチラシの配架やポスターの掲示はできる。時期が合えば、図書館とタイアップして関連本などを展示することもできる。
- (委員) 町内の回覧に、カラー刷りのジュニアリーダー研修会の報告があった。写真がとともあり、楽しさが伝わってきた。これまでもあったのか。
- (事務局) 昨年から青少年指導員だよりの号外版で年4回、回覧で報告をしている。
- (委員) 写真や中学生の感想などがあり、とても良かった。報告があれば、次の年の募集の時につながっていくのではないかと思った。町民大学では、写真付きで何か報告はしているのか。
- (事務局) 報告として、facebook をあげている講座もある。
- (委員) 町内の回覧などに、色刷りの町民大学の講座一覧が1枚でも入っていると、比較的目につくのでは。
- (委員) やはり写真がとてもインパクトがある。何か工夫ができれば。
- (部長) 広報紙については、予算の削減や配布する方の負担軽減もあり、ページ数や回覧物を減らしている。
- (委員) 継走大会の人数は、運動場に集まった人数なのか。沿道の方も含まれているのか。
- (事務局) 沿道の方の人数は集計できないため、おそらく各地区からの選手、オープン参加の人数だと思われる。
- (委員) 継走大会は町内を一周する大会であるから、地域の応援が必要である。町内全地区を回るのだから、出来るだけ多くの人が集まって応援してもらえるようになれば、盛り上がるのではないか。
- (委員長) 米印がついているおはなし会は、スペシャルおはなし会となっているが、どういうものか。
- (事務局) スペシャルおはなし会は、展示ギャラリーを使用して人形劇などをやったりする大がかりのもので、自由に入って見てもらうものである。先ほどの子ども自然塾のように、幼児向けのおはなし会は人が集まる。小学生向けはやはり少な

く、なるべく夏休みに開催しようと考えている。

(事務局) ちいちゃいおはなし会はこれまで2~3歳児向けにやっていたが、4か月健診のブックスタートから2歳になるまでおはなし会の受け皿がないことから、今年度、対象を1歳まで下げたところ、参加人数が増えた。

(委員) 先ほど大人のリピーターの話があったが、子どもはどうか。

(事務局) 子どもは成長するため年齢に応じて対象がある。そこは大人と違う性質がある。

(委員) おはなし会などは幼児向けや小学生向けとあるが、対象に向けた内容になっているのか。

(事務局) 違っている。こちらの想定とは違って、低年齢の子が来るということはある。

(委員) 11月2日のわらべうたで遊ぼうは「子育て支援講座」となっているが、他のものとは異なるのか。

(事務局) わらべうたで遊ぼうは、通年で0~3歳児対象だが、町の子育て支援の計画が立てられた際、図書館で子育て支援講座として、0歳児を対象としてやることとなった。

(委員) おはなし会やわらべうたはどこが実施しているのか。

(事務局) にのみやおはなし会やわらべうたの先生にお願いして、やっていたいている。

(委員) 配布された図書館だよりにボランティア育成とあるが、ボランティアの募集はどうやっているのか。

(事務局) 修理ボランティアについては、定員を満たしており、現在募集をしていない。書架整理ボランティアは、研修をして管理をする関係上、タイミングが来たら募集をしている。修理ボランティアは昨年募集を行った。録音ボランティアは、表だって募集はしていない。希望者がいれば随時聞いて、タイミングが合えば登録してもらおう形をとっている。録音ボランティアに関しても現在募集していないが、希望があれば参加してもらえればと思っている。

(委員) 学校図書館でのボランティアもしているのか。

(事務局) 学校図書館でもやっている方はいるが、基本は、図書館内のボランティアで、団体ではなく個人で登録してもらっている。

(委員) 学校ではどうしているのか。

(委員) 3校それぞれボランティアがいて、主に保護者や保護者OB・OGがやっている。

(事務局) 過去に学校図書館ボランティアに図書館の修理担当が研修したことはある。連絡がとれている部分はある。

(委員長) 学校図書館連絡会議では、問題や課題などは出てきたのか。

(事務局) 情報交換がメインとなっている。今年度、図書館で利用が少ない中高生向けのティーンズコーナーをリニューアルするにあたって、中高生を実際に相手にしている学校図書館の方に話が聞けたため、収穫があった。今の中高生は、視覚に訴えるものが効果的であるなどの話を聞くことが出来た。

(委員長) 図書のリサイクルは、毎年約2,000冊も出しているのか。

(事務局) そうである。書庫も開架もいっぱい状況で、新しく入れた本の分を除籍して

いかないと、鮮度が保てない。また寄贈された本で、図書館で所蔵にしない本も出している。

(委員長) 約 2,000 冊も出しているが、全部無くなるのか。

(事務局) 1 回あたりは 200~300 冊だが、ほぼ無くなっている。図書館基金へのご協力を呼びかけている。館内にある募金箱にいれてもらっている。

(委員) 学校と図書館で本のやりとりはあるのか。

(事務局) 学校から図書館が借りるということはほとんど無い。学校からは連絡シートのようなものがあり、FAXで申し込みをしてもらおう。年に何回か学校へ貸している。

(委員) 大人のおはなし会は人気があったのか。

(事務局) 定着してきていて、リピーターがいる。来年は回数を増やすことも考えている。

## (2) 放課後子ども教室について

※事務局より資料に基づいて説明。

(委員) 回数の 4 回を 3 回にした理由はあるのか。

(事務局) 一色小学校区で、現在コミュニティスクールの研究を行っていて、将来的には町からコミュニティスクールに移行できたらと考えている。平成 26 年度から開始しているが、町主催での開催は、いろいろな制約や職員の負担など総合的に考えて、限界があるなど感じている。今、一色小学校でコミュニティスクールを立ち上げようとする動きがある中で、地域が運営し、地域の人と子どもの交流の場にしていくことが地域づくりにもつながっていくことにもなる。将来的には一色小学校だけでなく、二宮小学校、山西小学校と全校で移行出来たらと考えている。移行期ということで、来年度は 1 回減らし実施したいと考えている。

(教育長) 再生協議会次第ではあるが、回数は 3 回とは限らず、地域の状況に応じて、回数はお任せするようになる。教育委員会主催から、数年後は地域主催の行事としていきたい。放課後の見守り活動をやめるのという意味ではなく、これから盛んにしていきたいという趣旨である。

(委員) コミュニティスクールに移行することは非常にいいことだと思う。

(教育長) 今年度から加わった民生委員や地域の人にも加わっていただき、地域の見守りの人が増えれば、体育館に限らずグラウンドでの活動も可能であるし、子ども自然塾との連携など色んな展開が考えられる。これまでの放課後子ども教室への事業費を、今後コミュニティスクールに回していこうとする移行処置として、町主催の回数を減らしていくという意味である。そういった周知や説明を今後していきたい。

(委員) ボランティアや協力してくれる人の集まり具合で、回数なども変わっていくということか。

(教育長) 集まり具合によって、盛り上がりも変わってくる。放課後子ども教室の事業費がボランティアへの支払いとなる。町民参画やケジメという意味で、有償でお

願いし、これが先駆けになれば。

(委員) 予算のことや様々なことがあるが、子どもの参加人数をみると、学校によっては1回当たりのサポーター人数が多いなという感じがある。小学生は、自分で考えて行動していることもあり、昨年サポーターを体験し、そう感じている。コミュニティスクールへ移行していくにあたり、子どもへの見方、接し方が昔と変わってきていることをサポーターには踏まえてほしい。きちんとさせるのではなく、子どもの自分で考える力や意欲を伸ばすということを踏まえて、縛りのサポーターではなく、遊ぶ力を応援するサポーターになってもらいたい。サポーターになる人に、講習などで、現在の子どもの何か大事でどういう見守りをすればいいのか、共通認識があるといい。今後考えてもらえれば。

(教育長) 町主催となると、安全確保や縛りが多くなり、管理的になってしまう。町主催では、帰りの迎えが必須となっているが、地域主催となり、将来的な夢としては、近くまでサポーターが子どもを送ることができればいい。

(委員) 現実的にできるかどうか。送った先に保護者がいるとは限らない。

(教育長) 実験的に一色小学校で、どういったシステムでできるかを研究してみたい。

(委員) 一色小学校以外の2校は、来年度、コミュニティスクールが間に合うのか。

(教育長) 間に合わない。

(委員) 他の2校は3回で終了ということか。

(委員) ボランティアを集めるのが大変だと思う。一色小学校区地域再生協議会では9分科会があり、そこにボランティアが参加している。掛け持ちの人が多い。ボランティアが集まれるのか。もしボランティアが子どもを送ることになると人手の関係もあり、難しいのでは。

(教育長) 人材不足は確かにあるので、PTAにも呼びかけなどをして、保護者の方にも協力していただく。保護者には、地域や学校にお任せではなく、もっと関わって欲しいと考えている。

(委員) 平日だと保護者の協力は難しいと思う。

(教育長) 地域主催になると、放課後だけでなく、土日での開催も可能となる。

(委員長) 子どもの帰りについては、こどもSOSの家関係を利用できないのか。

(委員) こどもSOSの家は各PTAが管理をし、担当のPTA役員が、毎年意向確認などを行っている。

(委員) サポーターの登録数ですが、各学校に固定したサポーターなのか。回数を割り振ったりしているのか。

(事務局) 学校は固定していない。サポーターの中には、一色小学校区に住んでいるから一色小学校だけ協力する方はいる。基本的に、協力が可能な日をお伺いし調整後、協力していただいている。

(委員) 平成28年度の放課後子ども教室に登録した子は、昨年度から実際増えているのか。

(事務局) 昨年度と今年度の登録率は変わらず13%であるが、総数としては1名減となっている。平成26年度の登録率は11%なので、平成27~28年度は上がったこ

とになる。

(委員) 二宮小学校、山西小学校の放課後子ども教室も1回減るということは、残念な感じがする。

(教育長) 残念と言われれば残念ではあるが、公平性の問題に加え、職員の削減、町の事業や行政サービスを減らしていくという流れを考えると、3回ずつでやっていきたい。

### (3) その他

- ・ 委員出張関係
  - ※ 委員より報告
- ・ 来年度の会議予定について
  - ※ 事務局より資料に基づいて説明
- ・ ITサービスコーナーの開設時間変更について

## 4 閉会

15時25分閉会